

■■注意■■
この箇所に、学生 ID の印字がないことを確認すること。

論文の見本

ハサミが奏でるブルース

—理美容業界から見る技術の社会的構成と解釈の多様性—

■■注意■■
節や項に区分けし、小見出しをつけるなど、わかりやすく構成すること。参考文献、注を目次に記載するかどうかは任意とする。

■■注意■■
氏名を記入しないこと。

1. はじめに
2. 先行研究の検討
 - 2.1. 「技術」の古い一面の形成 - 戦後の理美容業界より -
 - 2.2. 「技術」の新しい一面の形成 - 美容業界の革新 -
 - 2.3. 「技術」の新しい一面が支持される
3. 終わりに

■■注意■■
基本的に、数字は半角数字にすること。また、数字はアラビア数字を用いること。

1. はじめに

あなたは「技術が高い」と聞いてどのような印象をもつだろうか。恐らく、「真似できない、繊細、正確」というようなものだろう。一般人が到底及ばない程の技術を活かして生業とする技術者は「職人」と呼ばれる。職人は、日本において古くからその価値を高く評価されてきた。例えば、陶芸、漆塗り、木工、織物のような伝統工芸を作る職人は、機械化が進む現代においても、消費者から手作業による技術の高さを評価され、彼らは古くから高いブランド価値を維持し続けている。ところが、実際には「真似できない、繊細、正確」な作業を行っているのにも関わらず、その価値が現代において消費者から軽視されている職人が存在する。理容師である。

古くからある商店街で、いまだ昭和の残り香を醸しながら佇む寂れた理容店があるのをよく目にする。かつては老若問わずの客で混み合った店内の待合場のイスに腰掛けて、テレビを見ながら常連の来客だけを待つ店主。厳しい修行の末に体得した技術と時間を持って余す彼らの背中には哀愁が漂う。現状から伺えるように、多くの若者は、理容室に行かなくなっている。実際、あなたが理容師について尋ねられた場合、「決まった髪型しかできず、時代遅れである」などのマイナスイメー

■■注意■■
ページ数をふること。